

著者紹介（掲載順）

岩内章太郎（いわうち・しょうたろう）

一九八七年北海道生まれ。現在、早稲田大学国際教養学部助手。専門は現象学、哲学的人間学。主な論文に、「Some Remarks on the Confrontation between Essentialism and Constructionism: A Phenomenological Perspective」(*Transcommunication*, Vol. 3-2)、「The Phenomenological Language Game: The Original Contract of Goodness」(*Journal of Eidetic Science*, Vol. 3)、「マックス・シェーラーにおける「人間」概念再考：ニヒリズムと動物化の狭間で」(『総合人間学』、第十号)など。

嘉山優（かやま・ゆたか）

一九九一年生まれ。早稲田大学国際コミュニケーション研究科修士課程修了。

石川輝吉（いしかわ・てるきち）

一九七一年生まれ。桜美林大学、日本社会事業大学、早稲田大学非常勤講師。英国エジンバラ大学哲学部修士課程修了(MSc by Research in Philosophy)、明治学院大学国際学研究科博士後期課程修了(国際学博士)。主な著書に『カント信じるための哲学』(NHKブックス)、『ニーチェはこう考えた』(ちくまプリマー新書)。

金泰明（きむ・てみよん）

一九五二年大阪生まれの在日コリアン二世。大阪府八尾市在住。現在、大阪経済法科大学法学部教授。著書に『共生社会のための二つの人権論』(トランスビュー)、『欲望としての他者救済』(NHKブックス)、『人権は二つの顔をもつ』(トランスビュー)他。

西研（にし・けん）

東京医科大学教授(哲学教室)。教育出版小学校国語教科書『広がる言葉』編集委員。東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了、社会哲学専攻。哲学を、一人ひとりが自分と世界との関係を深く考えるための技術として再生することをめざしてきた。代表的な著書に『ヘーゲル・大人のなにかた』(NHKブックス)、『哲学的思考——フッサール現象学の核心』(ちくま学芸文庫)。最近作に『自分のために生き、みんなのために生きる——ルソー「エミール」』(NHK 100分de名著ブックス)がある。

野口勝三（のぐち・かつぞう）

大阪経済法科大学21世紀社会総合研究所客員教授。専攻…哲学、ジェンダー論、論文：「自由の形而上学」、「精神と物質序説——心的秩序の存在論」他多数。

行岡哲男（ゆきおか・てつお）

一九五一年生。七六年東京医科大学卒業。十七年より同大名誉教授・常務理事および日本救急医療財団・理事長。

日本熱傷学会会長・理事長、日本救急医学会会長・代表理事、国際熱傷学会副会長、東京医科大学病院長を歴任。米国外傷外科学会名誉会員。著作：「医療とは何か」現場で根本問題を解さほぐす」（河出書房新社）。翻訳：「トップナイフ」外傷手術の技・腕・巧み」（医学書院）。